



九州大学記者クラブ会員 各位

## 「グローバル COE プログラム」の評価に対する共同声明

グローバル市場や国際交渉のような幅広い国際舞台において、欧米の企業や官では、科学技術等の深い専門性と幅広い教養、問題発見・課題解決能力、骨太な精神力を併せ持った博士人材が活躍しています。このように、我が国産業や官の国際競争力向上の観点から、博士人材の育成が必要とされています。グローバル COE プログラムでは、我が国産業の国際競争力向上に向け、科学技術創造立国を担う産業界・学術界のリーダーとなる若手技術者・研究者を育成するため、卓越した研究と博士課程教育を高度に融合し、世界最高水準の教育研究拠点の形成を目指しています。

昨年度の行政刷新会議「事業仕分け」第3WGによるグローバル COE プログラム評価においては、認識不足や誤解に基づく評価コメントが出され、意見に散らばりがある中、予算要求の縮減という結論が出されました。さらに、来る11月18日には行政刷新会議ワーキンググループ（事業仕分け第3弾後半）として、過去の事業仕分け等の反映状況の検証結果を踏まえ、昨年より一層厳しい結果が出されることが懸念される状況です。

このような状況を踏まえ、グローバルCOEプログラム拠点の実状を公に発信する趣旨から、平成22年11月15日（月）午後4時から、東京大学本郷キャンパスにおいて、グローバルCOEプログラム拠点リーダーによる記者会見が行われ、別紙のとおり共同声明が発表されましたのでお知らせします。

### 【お問い合わせ先】

九州大学 学術研究推進部学術研究推進課長 児島 明佳

電話：092-642-7265

FAX：092-642-7090

Mail：[kisgodo@jimu.kyushu-u.ac.jp](mailto:kisgodo@jimu.kyushu-u.ac.jp)

平成22年11月15日

## 行政刷新会議の「グローバルCOEプログラム」評価に対する共同声明

グローバルCOEプログラム拠点リーダー一同

グローバル市場や国際交渉のような幅広い国際舞台において、諸外国の企業や官では、科学技術等の深い専門性と幅広い教養、問題発見・課題解決能力、骨太な精神力を併せ持った博士人材が活躍しています。直面する地球規模の深刻な諸課題を解決に導く鍵は、「知の創造」において他になく、科学技術の急速な発展による知の爆発的拡大の中、新たな知の体系の創造に世界がしのぎを削っています。したがって、科学技術は人が資源であり、それらを担う人材の育成が重要であることは明らかです。

グローバルな知識社会での生き残りをかけて、各国は国家戦略として「知の集積地」たる大学への重点投資を強化しているのに対し、我が国では「科学技術創造立国」を目指すと言明するも、高等教育機関に対する財政支出の対 GDP 比率は OECD（経済協力開発機構）加盟国中最下位であり、各国平均値の半分というのが実情です。大学の教育研究への公財政支出が極めて脆弱でしかも削減され続けています。このような中で、グローバル COE プログラムでは、我が国産業の国際競争力向上に向け、科学技術創造立国を担う産業界・学術界のリーダーとなる優秀な若手人材を育成するため、卓越した研究と博士課程教育を高度に融合し、世界最高水準の教育研究拠点の形成を目指しています。

世界の標準では、若手研究者はポスドクと呼ばれる博士研究員を経験することで鍛えられ、広い視野で研究を進める力を磨きます。博士課程の学生は研究資金によりリサーチ・アシスタント (RA) として雇用され、その給与で生活しています。懸命に世界最高水準の研究を支える一員として大きく貢献している博士課程の学生に対してその貢献への対価として経済支援を欠かすことはできません。しかし、現在、我が国ではこうした支援は十分とは全く言えませんが、その状況の中で、グローバル COE は貴重な資源となっています。大学が担う学術研究や人材育成は短期的な数値では測り難い高い知的価値を持ち、その成果が目に見える形で現れるまでには一定の期間を要しますが、確実に「未来」を拓く原動力であると確信しています。

世界的に競争の厳しい科学技術分野では、一度遅れを取れば取り戻しが極めて困難であることは明白です。グローバル COE プログラムに代表される大学院の高度な教育研究活動、すなわち、国家としての将来を担う人材の育成は瞬時も怠ることがあってはならないと考えます。大学院教育研究現場でも、関係者一同、これまで以上に奮起する所存ではありますが、行政刷新会議におかれましても、短期的な効率性の過度の追求による現場の疲弊・混乱を避け、10年、20年先の日本の進路という大局的視点に立って、ご議論いただきたく、ご高配をお願い申し上げます。

以上

## グローバル COE プログラム拠点リーダー一同 (140 名)

- 【生命科学】大隅典子(東北大学), 小島至(群馬大学), 宮下保司(東京大学), 徳永万喜洋(東京工業大学), 近藤孝男(名古屋大学), 阿形清和(京都大学), 柳田敏雄(大阪大学), 片岡徹(神戸大学), 島本 功(奈良先端科学技術大学院大学), 藤木幸夫(九州大学), 桑昭苑(熊本大学), 吉川信也(兵庫県立大学), 末松誠(慶應義塾大学)
- 【化学・材料科学】宮浦憲夫(北海道大学), 山口雅彦(東北大学), 後藤 孝(東北大学), 中村栄一(東京大学), 竹添秀男(東京工業大学), 鈴木啓介(東京工業大学), 平井利博(信州大学), 渡辺芳人(名古屋大学), 澤本光男(京都大学), 福住俊一(大阪大学), 掛下知行(大阪大学), 君塚信夫(九州大学), 黒田一幸(早稲田大学)
- 【情報・電気・電子】有村博紀(北海道大学), 安達文幸(東北大学), 山海嘉之(筑波大学), 保立和夫(東京大学), 渡辺治(東京工業大学), 小山二三夫(東京工業大学), 石田誠(豊橋技術科学大学), 田中克己(京都大学), 野田進(京都大学), 村田正幸(大阪大学), 谷口研二(大阪大学), 大西公平(慶應義塾大学), 後藤敏(早稲田大学)
- 【人文科学】亀田達也(北海道大学), 一ノ瀬正樹(東京大学), 小林康夫(東京大学), 峰岸真琴(東京外国語大学), 耳塚寛明(お茶の水女子大学), 佐藤彰一(名古屋大学), 子安増生(京都大学), 小泉潤二(大阪大学), 渡辺茂(慶應義塾大学), 竹本幹夫(早稲田大学), 赤間亮(立命館大学), 陶徳民(関西大学)
- 【医学系】喜田宏(北海道大学), 岡芳知(東北大学), 山下英俊(山形大学), 中山俊憲(千葉大学), 門脇孝(東京大学), 清木元治(東京大学), 野田政樹(東京医科歯科大学), 祖父江元(名古屋大学), 成宮周(京都大学), 米田悦啓(大阪大学), 東健(神戸大学), 平山謙二(長崎大学), 満屋裕明(熊本大学), 岡野栄之(慶應義塾大学)
- 【数学・物理学・地球科学】井上邦雄(東北大学), 大谷栄治(東北大学), 上野信雄(千葉大学), 樽茶清悟(東京大学), 川又雄二郎(東京大学), 斎藤晋(東京工業大学), 杉山直(名古屋大学), 深谷賢治(京都大学), 川合光(京都大学), 北岡良雄(大阪大学), 中川義次(神戸大学), 入船徹男(愛媛大学), 若山正人(九州大学), 三村昌泰(明治大学)
- 【機械・土木・建築・その他工学】圓山重直(東北大学), 藤野陽三(東京大学), 光石 衛(東京大学), 時松孝次(東京工業大学), 砂田憲吾(山梨大学), 福田敏男(名古屋大学), 松岡譲(京都大学), 山内和人(大阪大学), 秋山秀典(熊本大学), 前野隆司(慶應義塾大学), 菅原進一(東京理科大学), 藤江正克(早稲田大学), 田村幸雄(東京工芸大学), 大窪健之(立命館大学)
- 【社会科学】田村善之(北海道大学), 佐藤嘉倫(東北大学), 辻村みよ子(東北大学), 岩村正彦(東京大学), 藤本隆宏(東京大学), 沼上幹(一橋大学), 深尾京司(一橋大学), 大塚啓二郎(政策研究大学院大学), 落合恵美子(京都大学), 大竹文雄(大阪大学), 吉野直行(慶應義塾大学), 田中俊郎(慶應義塾大学), 田中愛治(早稲田大学), 上村達男(早稲田大学)
- 【学際・複合・新領域】山口隆美(東北大学), 田中知(東京大学), 松田裕之(横浜国立大学), 杉原薫(京都大学), 野村泰伸(大阪大学), 恒川篤史(鳥取大学), 田辺信介(愛媛大学), 山下俊一(長崎大学), 今井康之(静岡県立大学), 佐々木雅幸(大阪市立大学), 天児慧(早稲田大学), 立岩真也(立命館大学), 山中康裕(北海道大学), 嘉糠洋陸(帯広畜産大学), 中静透(東北大学), 赤林朗(東京大学), 片岡一則(東京大学), 平井秀一郎(東京工業大学), 河野隆二(横浜国立大学), 八尾健(京都大学), 前川二太郎(鳥取大学), 永島英夫(九州大学), 坂上雅道(玉川大学), 熊井英水(近畿大学), 岩下明裕(北海道大学), 森下真一(東京大学), 井田茂(東京工業大学), 安成哲三(名古屋大学), 寶馨(京都大学), 石黒浩(大阪大学), 矢原徹一(九州大学), 大和雅之(東京女子医科大学), 彼末一之(早稲田大学)

## イベントのご案内

平成22年11月12日

大学記者会加盟各社 御中  
(社会部・科学部)

東京大学広報室  
室長 武田 洋 幸

### 「グローバルCOEプログラム」に関する記者会見について

グローバル市場や国際交渉のような幅広い国際舞台において、欧米の企業や官では、科学技術等の深い専門性と幅広い教養、問題発見・課題解決能力、骨太な精神力を併せ持った博士人材が活躍しています。このように、我が国産業や官の国際競争力向上の観点から、博士人材の育成が必要とされています。グローバルCOEプログラムでは、我が国産業の国際競争力向上に向け、科学技術創造立国を担う産業界・学术界のリーダーとなる若手技術者・研究者を育成するため、卓越した研究と博士課程教育を高度に融合し、世界最高水準の教育研究拠点の形成を目指しています。

昨年度の行政刷新会議「事業仕分け」第3WGによるグローバルCOEプログラム評価においては、認識不足や誤解に基づく評価コメントが出され、意見に散らばりがある中、予算要求の縮減という結論が出されました。さらに、来る11月18日には行政刷新会議ワーキンググループ（事業仕分け第3弾後半）として、過去の事業仕分け等の反映状況の検証結果を踏まえ、昨年より一層厳しい結果が出されることが懸念される状況です。

そこで、グローバルCOEプログラム拠点の実状を説明し、我々の率直な意見を公にするための記者会見を設けます。

日時：平成22年11月15日（月）16:00-17:00（15:30より受付）

（直接報道受付までお越しく下さい。資料配付、報道関係者席へご案内します。）

場所：東京大学 本郷キャンパス内 総合図書館 3階 会議室

[http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01\\_00\\_07\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_00_07_j.html)

主催：全国140拠点グローバルCOEプログラム 拠点リーダー有志

内容：開催趣旨説明

グローバルCOEプログラム拠点の実情説明

グローバルCOEプログラムに参加する学生からの声

質疑応答

行政刷新会議の「グローバルCOEプログラム」評価に対する共同声明

登壇者：全国140拠点グローバルCOEプログラム 拠点リーダー有志（9領域から）約10名

大学院博士課程学生代表約10名

本件についての問い合わせ：

東京大学 COEプログラム推進室

電話 03-5841-1055